

# 功を奏したライフリングプロジェクト

～ライフリングによる初の救助～

## 事案の概要等

平成25年6月22日、午前8時20分頃、残波岬の岩場で釣中の釣り人が海面を泳いでいる遭難者を発見、付近で散歩中のU氏に救助の応援を求めた。

U氏は日頃から付近を散歩コースとしており、近くの公衆トイレに設置されていたライフリングの存在を知っていたことから、約150メートル走って、ライフリングを取り救助に向かい、岩場からライフリングを投げ入れ、それにつかまった遭難者をロープで手繰り寄せ救助した。



残波岬は、沖縄本島中ほどの読谷村にある東シナ海に面した岬で周辺は沖縄海岸国定公園に指定され、30mもの断崖絶壁が約2kmも続く雄大な景観が広がっている景勝地であることから、県内外の観光客が多く訪れるほか、磯釣りやダイビングのポイントとしても有名でもある。



ライフリングと琉球水難救済会浅野常務理事

## 救助に使用された ライフリング

(公社)琉球水難救済会が、読谷村役場及び読谷漁協からの要望を受け、平成25年2月12日、沖縄県中頭郡読谷村の残波岬灯台付近の公衆トイレの外壁に設置したものを。

### 【ライフリング(救命浮環)の概要】

寸法：外径約76センチメートル  
内径約43センチメートル  
ロープ：長さ約30メートル  
表示：「青い羽根募金からの贈り物です」と青い羽根のロゴマークを表示

## ライフリングプロジェクトとは

日本水難救済会及び各地方水難救済会では、岸壁・防波堤における海中転落事故による死者・行方不明者が海浜事故の約6割を占めていることから、広く国民の皆様から寄せられた「青い羽根募金」を原資として、一般人の海中転落事故発生のおそれのある桟橋及び海浜公園等に救命浮環を設置する

「ライフリングプロジェクト(救命浮環設置事業)」を展開しております。

ライフリングには、岸壁の手すり等既存の設備に取り付けたもの、スタンドを立て取り付けたもの及び水辺の近くに設置した「青い羽根募金支援自動販売機」のダストボックスの上部に内蔵したものがあり、平成25年7月末現在、全国で130個(うち青い羽根募金支援自販機27個)が設置されております。



千葉県館山港の多目的桟橋に設置されたライフリング



佐賀県水難救済会が設置したライフリング内蔵型青い羽根募金支援自販機

## (公社)琉球水難救済会浅野常務理事のコメント

残波岬のライフリングは、平成24年8月に残波岬灯台のフェンスに設置しましたが、ほぼ1カ月後に沖縄を襲った台風17号は灯台の一部を破損させ、せっかく設置したライフリングも吹き飛ばしてしまい、翌日、風が収まった残波岬で釣りをしていた男性が、多くの観光客の目前で岸壁に打ち寄せた波にさらわれ海中に転落し死亡する水難事故が発生しました。事故を目撃した多くの人が救助の手を差しのべようとしたが、ライフリングなどの器材が無いためなすべもありませんでした。

今回、新たに設置したライフリングが功を奏し、喜ばしい限りです。青い羽根募金の募金者に感謝します。



## ボランティアスピリットの継承のために 水難救済思想の普及活動レポート

(公社)日本水難救済会では、海事思想や水難救済会ボランティア思想を啓蒙することにより将来の後継者になってもらえるよう、青少年を対象に、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々に講師を招いて全国各地で水難救済ボランティア教室を展開しています。

千葉県水難救済会による、山武市立大平小学校でのボランティア教室(7月16日)

## 若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は、平成13年度から始まった事業で、小中学校や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに、海に親しむ機会を提供し、実地体験を

通じて救命技術を習得してもらうことを目的としています。

教室では、海の安全意識の向上を図るとともに、水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。

今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁から後援を受け、全国各地で開催しています。

## ■(公社)琉球水難救済会

### 沖縄ライフセービング協会の協力を得て、若者の水難救済ボランティア教室を開催

平成25年5月31日、沖縄県立沖縄水産高校にて「若者の水難救済ボランティア教室」を開催した。海洋技術科一年生の生徒36名を対象に浅野常務理事による琉球水難救済会の歴史に関する講話が行われ、続いて「沖縄ライフセービング協会」からの講師による心肺蘇生法の実地指導の後に、生徒が数人のグループにわかれて体験とAEDの取扱の訓練を行った。



心肺蘇生法の体験

■(公社)福岡県水難救済会  
合言葉「ういてまで!!」を  
確実に実行

平成25年7月5日、福岡市西区の壱岐小学校で同校の児童(四年生180名)を対象に、また、7月10日には福岡県古賀市の小野小学校で同校の児童148名(六年生77名、四年生71名)を対象に、「若者の水難救済ボランティア教室」を開催した。

福岡着衣泳会の指導員及び福岡海上保安部の職員の指導により、着衣状態で泳ぐことの難しさを体験したあと、ペットボトルを使った背浮きにより、いかにして自分の身体を浮かせるかを体験し、合言葉「ういてまで!!」を確実に実行することを約束した。その後、海上保安部の指導によりライフジャケットの着用体験を行い、最後に夏休み期間中の無事故を誓い合った。



福岡市西区・壱岐小学校 (参加者 四年生 180 名)



古賀市・小野小学校 (参加者 六年生 77 名・四年生 71 名)



背浮きを学ぶ児童・生徒

■NPO長崎県水難救済会  
全校児童8名が、海に落ちた時の対応を学ぶ

平成25年7月16日、西海市崎戸町平島の市立平島小中学校の全校生徒8名が、平島港内で行われた「若者の水難救済ボランティア教室」で、海に落ちた時の対応などを学んだ。

この教室では、佐世保海上保安部の職員5名と長崎県水難救済会の4名が指導にあたった。

児童・生徒は着衣のまま海に入り、溺れそうになった時は慌てずおおむけに大の字になれば楽に浮くことができることを体得するとともに、溺れている人を発見した時にはペットボトルやバレーボール、ランドセルを投げて浮輪代わりにして、救助する方法を勉強した。

■大阪府水難救済会  
保育園児及び小学校児童が  
自己救命策等を体験

平成25年7月9日に泉南郡岬町の多奈川小学校、また7月16日には同町の岬町立淡輪保育所にて、第五管区海上保安本部関西空港海上保安航空基地の機動救難士を講師に招きボランティア教室を開催した。

多奈川小学校では児童、教諭の計115名と多奈川保育所の園児、保育士の計11名、岬町立淡輪保育所では園児、保護者、保育士の計37名が参加した。

教室では海浜事故防止について、友達が溺れた時、「大きな声で大人を呼ぶ」、「簡単な浮くものを投げる」等の説明が行われた。

また、ペットボトルを利用した溺者の救助方法や、救命胴衣の着用体験も行われた。



岬町立多奈川小学校・岬町立多奈川保育所  
(参加者 児童 104 名・園児 8 名)



岬町立淡輪保育所 (参加者 園児 23 名)